

広げよう 感動。伝えよう 感謝。

テーマ：「希望郷いわて国体におけるスポーツ現場の目線」



平成28年4月19日（火）午後4時～5時 北上市民交流プラザ 催事場 にて

参加者

山門 武志さん

（株式会社CREDO 代表取締役アスレティックトレーナー）

野田 春輔さん

（専修大学北上高等学校教諭、国体卓球少年男子監督）

佐藤 徳信さん

（専修大学北上高等学校講師、国体女子サッカーコーチ）

若手スポーツ指導者の  
みなさんとお話したよ！



北上市長 高橋敏彦、まちづくり部参事 照井啓治  
国体推進課長 及川健二、スポーツ推進課長 高橋剛

**市長あいさつ：**北上市としても国体を成功させるのはもちろん、市民の皆さん方が国体をどう生かしていくかが一番大切だと思っています。

国体については、これまでも多くの個人・団体の皆さんに、いらっしゃる方々を気持ちよくお迎えできるよう取り組みをいただいています。

それだけではなく、競技に触れる、取り組むきっかけになる、といったことでも国体は非常にいい機会になるのではないかと思いますので、そのためにも、皆さんが普段感じていることを聞かせていただきたいと思います。





【話題提供】山門さん：国体の開催をきっかけに、スポーツの価値を高め、スポーツを通じた街づくりとスポーツ産業活性化に結びつけたいと考えています。

具体的には、いわて国体版きたかみはしご酒を開催することで、県外からの観客を盛岡や花巻ではなく、北上に留め、地場産品などのPRを行うこと、それから、シニアボランティアに活躍いただくことです。選手・観客に最前線で接するボランティアは岩手・北上の印象を左右する重要な役割を担っていますし、国体後も様々なボランティアに参加いただくことで、交流の輪が広がりますし、本人の健康増進にもつながっていきます。これらは、北上の既存の組織である実行委員会やNPOなどと協力して行うことで、可能になるのではないのでしょうか。

大切なのは、どちらも「人と人とが交流する」ことです。感動を広げるのも、感謝を伝えるのも「人」だからです。これは、いわて国体のサブタイトルにもなっています。この感動を広げるためには、関わる人を増やす以外になく、主体的に、関わり方、機会を創造してあげる必要があると思っています。国体期間中、北上市に多くの観客が訪れることは「多くの声援、感動」を生み出し、「北上市の経済活性化」にもなると思います。

私たちも、スポーツに関わるものとして、北上から世界で活躍する選手を生み、海外チーム・選手との交流、強化を図っていきたくと思っていますし、北上市民に北上で頑張るアスリートを応援する風土を創り上げたいと思っています。それは、例えば高校生を応援する、ということだけにとどまらず、スポーツ選手が学生生活を終えても競技を継続できる環境を生み出すということでもあります。

一人でも多くの岩手県民がスポーツを通じてワクワクするためにも、スポーツで北上市を盛り上げたいと思っています。そのきっかけとして、この国体を盛り上げたいと思っていますし、具体的な仕組みや政策についても現場の人間として関わっていきたくと思っています。

**市長：**はしご酒については、すでに実行委員の皆さんが企画をしているようですし、ボランティアについては高齢者の方も含め「参加しますよ！」という声をいただくことも多く、成功する手ごたえを感じています。

あとは終わった後、その勢いを持ってスポーツ振興を図らなくてはいけないと思います。北上市はスポーツ宣言都市でもありますから、国体は大きなチャンスだと捉えて、皆さんの生徒や仲間がそれを活用して、輝けるような企画・アイデアはぜひお寄せいただきたいと思っています。



## 【北上での取り組み紹介】

北上では**1,401人**が  
ボランティア登録！

**国体推進課長：**北上でも、何らかの形で継続して関わっていただけるように取り組みたいです。

H27  
和歌山国体では…  
(ボランティアを)  
初めてした人  
→約3割

**またしたい人**  
→約6割

### ♪ 歓迎ムードづくり♪

- ・花いっぱい運動（プランターを沿道に）
  - ・各都道府県応援のぼり旗づくり
  - ・競技大会の学校応援
  - ・地元食のおふるまい（さといも・桑など）
- 各学校・団体・地域などによるもの

## チャレンジデー

≪平成28年5月25日(水)午前0時～午後9時≫

※毎年5月の最終水曜日に世界中で行われる運動の日。15分以上の運動身体活動を行った住民の参加率を自治体同士で競い合います。これを機会にスポーツに親しみ、健康増進へつながることを願って行われる住民参加型のイベントです。詳しくは検索、または市スポーツ推進課へ！

北上市 チャレンジデー

**国体推進課長：**市民の皆様にも、チャレンジデーなどの機会も利用しながら、国体競技会場へ足を運んでいただけるようPRしていきたいと思っています。

**市長：**今年も石垣市と対戦します。今年は56,000人～57,000人と、市民の約6割程度を目標としていますので、そのくらいの市民に国体も合わせてPRできる機会になると思います。ゲストとして岡崎朋美さんを迎える予定で、NPO法人のフォルダと協力しながら進めることにしています。

いわて国体・全国障がい者スポーツ大会のPR



**山門さん：**スポーツ大会では、試合結果によってスケジュールが左右されるので、はとバスのように、気軽に観光できる手段があれば、乗ってみようという人は多いと思います。

また、PRにあたっては、種目よりも「人」を取り上げてほしいと思います。出身が同じとか、近所に住んでいるとか、そういう要素から関心を持つことが多いので、どんどんPRしてほしいです。

**市長：**今は各教育機関と16地区のコミュニティがそれぞれ特定の都道府県や地域を決めて応援いただくことを考えていますし、特に陸上については多くの人に、トップアスリートの競技を見てほしいと思っています。

また、国体が終わった後の全国障がい者スポーツ大会を見てほしいと思っています。健常者よりも速く高く、結果を出す皆さんの活躍を見ることは、深い感動を覚えることになると思います。こちらも強くPRしていきたいと思っています。

こんなところが気になる！困った！過去の国体



**佐藤さん：**これまで参加してみて自治体によって違いがあると感じるのは控室です。試合前の時間は集中力を高める大切な時間ですが、サッカー競技は屋外テントの場合が多く、天候に左右されたり、そばで試合や人の往来があるような場所では雑音が入ったりと、十分に時間を活用できないこともあります。

自分たちの問題もありますが、控室への対応ひとつで、運営に気を使っただけしているなという印象を受けます。

**市長：**県内すべての市町村で行われるので、種目によっては十分な環境を提供できないこともあるかもしれません。北上市ではインターハイを経験しているので、ある程度要望に沿った施設にはなっていると思います。

**まちづくり部参事：**北上では、屋外競技の陸上・テニスの選手控室は屋外になりますが、雨風が入らない四方を囲むテントで、かつ大きめのものを準備することにしていきます。サッカーは人数も多いので、特に控室確保が難しいようですね。

**山門さん：**選手がベストパフォーマンスを見せることを目指した大会のほずなのに、運営側の都合しか考慮されていない大会になってしまうこともあります。それでは、スポーツの発展にはつながりません。そこをきちんとフォローすることで、北上が一步飛び抜ける可能性もあると思います。



**市長：**国体については、実際に運営しているのは県の競技協会になります。全国の競技協会と協議しながら進めていると思います。



**野田さん：**宿舎から体育館まではタクシー券を使って良くても、宿舎から練習会場までは使えないというような制限があり、移動に困ったことがあります。いわて国体では、卓球少年男子の選手はみんな専北の生徒なので、試合後の練習を慣れた環境で行えるよう、宿舎を北上市内にできないか要望しているところです。

## 高校生アスリートの進路

※専大北上2年・吉田俊暢さんの活躍に注目だよ！

**野田さん**：専北の卓球部はインターハイに12年連続出場していますし、日本代表選考会で上位に入り、7月に日の丸を背負ってベトナムオープンに出場することが内定している生徒\*もいます。優秀な成績を収める生徒は大学に進学してもプレーしますが、卒業後にこちらに戻ってこれないという悩みもあります。



**市長**：ここ数年は国体もあって、市役所でもスポーツ枠を採用しました。そういうタイミングが合えばよいのですが。北上ではシチズンさんに卓球部がありますので、クラブごと交流してみるのもいいかもしれません。

また、今後大きな大会に出るのであれば、メディアに出る機会も増やしてってください。全国大会に出る際に市役所に報告に来ていただくことがあります。その際は報道機関も同席するので、PRする機会になると思います。

**山門さん**：北上の学校に通っている生徒で、日の丸を背負っている選手がいるということを市民が知らないなので、関心も高まらないのだと思います。そういった個々の選手をPRする方法が必要ではないかと思います。



**市長**：PRの手段はいくつかあるので、ぜひ行政を活用してほしいです。

## 現場との意見交換の機会

**山門さん**：スポーツの現場では様々なことが起きています。ぜひ、現場とも意見交換ができる機会を作ってほしいと思います。

**市長**：市では、どうしても競技協会などとのやり取りが中心になります。国体でいえば専門部会などの委員会に参加し、ぜひ意見を述べていただきたいと思います。

## ふりかえり



**佐藤さん**：女子サッカーはまだ知られておらず、競技人口も少ないので、岩手にこんなチームがあるのだと広めていきたいと思っています。今日参加してみて、そのために、行政の皆さんにも協力いただきたいと思いました。

**山門さん**：我々は全員30代の若手ということもあり、これからも北上のスポーツを盛り上げていきたいので、ネットワークを生かし、協力し合いたいと思います。

**まちづくり部参事**：いろいろご提言をいただき、参考になりました。我々も国体を成功させて、スポーツを振興させたいと思っています。思いは同じですので、これから情報共有しながら、達成していきたいと思います。

**市長**：国体は行政だけでは到底できるものではありません。市民がそれぞれ気づいたところを気が付いた範囲で動くということを積み上げて盛り上がりを作られるのだと思います。ぜひ気が付いた人から、少しでもいいから取り組みを始めて、残された時間を使ってPRをして、一人でも多くの市民の皆さんに感動を与えられるような大会にし、それ以降も継続していきたいと思います。